

会 議 記 録

会議名称	杉並区中・高校生の新たな居場所づくり懇談会（平成25年度第2回）	
日時	平成25年7月27日（土）13時25分～18時45分	
場所	杉並区役所中棟6階 第4会議室	
出席者	委員名	井上委員、大竹委員、水野委員、徳嵩委員、本橋委員
	事務局	子育て支援課長、児童青少年課長、生涯学習推進課長、保健福祉部管理課長、子育て支援課管理係長、子育て支援課計画推進担当係長、子育て支援課保健担当係長、子育て支援課管理係主査、児童青少年課青少年係長
傍聴者数	1名	
配付資料等	<p>1 第1回会議録</p> <p>2 資料1 青少年実態調査（中・高校生の居場所に関するアンケート）集計結果について</p> <p>3 資料2 他自治体における主な「中・高校生の居場所施設」の状況</p>	
会議次第	<p>第1部</p> <p>（1） 青少年実態調査（中・高校生の居場所に関するアンケート）集計結果について</p> <p>（2） 他自治体における主な「中・高校生の居場所施設」の状況</p> <p>（3） その他</p> <p>第2部</p> <p>（1） 中学生との懇談</p> <p>（2） 高校生との懇談</p> <p>（3） 委員間での意見交換</p>	
会議記録		
会長	<p>時間になりましたので、始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>まず、会に先立ち前回の会議録について、メールでご確認いただいているかと思いますが、何かございましたら会議終了時までに事務局にご連絡いただければと思います。</p> <p>それでは早速ですが、前回話題になりました居場所に関しての中・高校生のアンケートの結果が出たので、お手元の資料とあわせて事務局から説明してください。よろしくお願いいたします。</p>	
子育て支援課長	<p>では、その前に今日、配付しております資料の確認をさせていただきます。</p> <p>レジュメのほか、資料1がアンケート集計結果、資料2が他自治体における「中・高校生の居場所施設」の状況です。これに関連して、資料番号はございませんが、議題の2でご報告する他自治体における「小・中・高校生居場所施設」のパンフレットを用意しました。</p> <p>次に、7月16日付で人事異動がございましたので紹介させていただきます。管理課長の高橋にかわりまして、新たに保健福祉部管理課長に着任した田部井です。</p>	
管理課長	<p>田部井でございます。よろしくお願いいたします。今までは高齢者の部門を担当してまいりましたが、このたび管理課長に就任しましたのでどうぞよろしくお願いいたします。</p>	
子育て支援課長	<p>では、議題の（1）青少年実態調査（中・高校生の居場所に関するアン</p>	

ケート)の集計結果です。前回の懇談会の際にもアンケート全部の質問項目についてはお渡ししましたが、その中の中・高校生の居場所に関する項目のみを今回集計しました。

1ページをごらんください。調査の概要ですが、対象者としては、中学2年生は区立6校の678人に配付しました。高校2年生は都立2校に558人に各学校で配付しました。調査期間は記載のとおりで、学校で配付・回収しました。

調査結果ですが、まず全体としては96.6%という回収率でした。中学2年生が97.3%、高校2年生が95.7%、男女比については記載のとおりで、若干男子が多いという回収でした。

では、2ページをごらんください。上に設問、真ん中に集計表、下に要旨という形でコメントがございます。

まず学校の部活動の参加状況について聞いたところ、クラブ活動に参加しているのは中学生では9割以上、高校生では9割弱が何らかのクラブ活動に参加しているという結果です。

3ページのどんな部活動に参加しているかでは、体育系か文化系、その他という選択肢です。全体では体育系に参加しているという回答が約7割、文化系に参加しているという回答が約3割です。

体育系に最も多く参加しているのは中学生の男子で8割以上です。逆に文化系に最も多く参加しているのは高校生女子で、体育系よりも多い参加率になっています。

4ページ、5ページは、学校のある平日の放課後にどんなことをしているかということで、主なもの3つまでの選択です。こちらは左が全体の数字で、右は男子と女子の中学・高校別の上位5位までを記載したものです。

全体を見ると、中学・高校ともに部活動に7割以上の回答があり、他の項目と比べると2倍以上になっております。第2位以降は談話、勉強、テレビ、習い事、ゲームと続いておりますが、この項目の回答率についてはそれほど大きな差はなく、それぞれ2割から3割になっております。

5ページの男子と女子の上位5位を見ますと、男子は部活動に続きゲームが中学生では第2位、高校では第3位で、女子は談話が中学生では第3位、高校生では第2位に挙げられております。

男子の回答にあったゲームが女子ではベスト5には入っておりません。逆に高校の女子で第4位の回答だったアルバイトが、男子の回答では第9位にとどまっております。

6ページ、7ページをごらんください。こちらは学校のある平日の放課後はどこで過ごすことが多いかという質問です。こちらにも主なものを3つまでです。全体で見ますと、中学生・高校生とも第1位が自分の家、第2位が学校となっており、どちらの回答もこの2つの回答は50%を超えて、他の回答と比べて高くなっております。

男子と女子の上位5位を見ますと、中学生では男子・女子ともに第3位に学習塾、進学塾が入っています。高校生では、今回調査した高校が「ゆう杉並」に近いこともあるかもしれませんが、「ゆう杉並」が男子では3位、女子では第5位に入っております。また、ファストフード店などの飲食店が、男子では第5位、女子では第3位に入っております。

男女別に第3位から5位までの回答を見ますと、中学生と高校生では同じ回答項目はありません。中学生と高校生が平日に過ごす場所が異なっているという状況です。

8ページ、9ページをごらんください。学校のある平日に誰と一緒に過

ごすかという質問です。こちらは圧倒的に学校の友達が約8割と特に多くなっております。このほか家族、1人で過ごすのが3割です。

中学・高校別に見ますと、学校の友達はどちらも第1位ですが、中学校の男子・女子では第2位が家族、第3位が1人で過ごすという順ですが、高校生では第2位が1人で過ごす、第3位が家族になっておりまして、中学生と高校生では2位と3位が逆になっております。

10ページ、11ページをごらんください。今までは学校のある日(平日)でしたが、問4以降は学校が休みの日にどんなことをしているかという質問です。こちら全体ではやはり部活動が約5割の回答で、これは平日と同様に高い回答になっております。

男子と女子の上位5位を見ますと、男子は部活動に続きゲーム、勉強、テレビ等となっており、これは平日の過ごし方と同様の傾向となっております。

女子では平日の過ごし方で5位までに入っていなかったショッピングが、中学校では第4位、高校では第2位に挙げられているのが特色です。

12ページ、13ページをごらんください。休みの日にどこで過ごすことが多いかという質問です。この回答についてはやはり自分の家が8割を超え、他の回答を大きく引き離して最も高くなっています。次に学校が3割弱で続いています。

男子と女子の上位5位を見ますと、中学生男子では第2位に友達の家が入っており、第3位が学校となっております。中学女子は第3位に習い事の場所、第5位に学習塾・進学塾が入っており、平日と同様の傾向となっております。

高校生はファストフード店などの飲食店が5位以内に入っておりまして、平日と同様の傾向が示されております。

14ページ、15ページをごらんください。これは休日には誰と一緒に過ごすことが多いかという質問です。こちらは全体で見ると学校の友達と家族の回答が6割を超えております。平日と比べると学校の友達が少なくなり家族が大きく増加しております。

男子と女子の上位5位を見ますと、中学生では男子と女子が同じ回答の順位で並んでおります。高校生では第1位は学校の友達で同じですが、男子の第2位は1人で過ごす、女子は家族ということで、男子と女子では回答の順位がやや異なっております。

16ページから18ページです。こちらは学校以外で過ごせる場所ということで、学校や家庭以外で身近な地域であつたらいいと思う場所はどのようなものかという質問です。16ページは全体、17ページ、18ページは男子、女子の第1位から第14位までの回答を順番に並べました。

全体では、スポーツや外遊びなど体が思い切り動かせるのが5割を超え最も多く、軽い飲食ができる、誰にも何も言われず過ごせる、自然の中でホッとできる、の3つの回答が約4割で続いております。

男女別で見ると、スポーツや外遊びなど体を思いきり動かせると回答した者は、中学生の男子が最も高く7割を超えております。中学生男子と高校生男子の回答順位は、第4位までは同様です。女子では高校生の第1位が、誰にも何も言われず過ごせるとなっており、男子や中学生の女子とは異なっております。

19ページから21ページは、学校や家庭以外の身近であつたらいいと思う場所は、どのように使えるとよいかという質問です。こちらと同じく19ページが全体の項目、20ページ、21ページが男子女子別の第1位から

	<p>第 10 位までの回答順位を記載しております。</p> <p>全体では、できるだけお金がかからずに利用できるが 8 割を超え、使いたいときに利用できる、長時間過ごせるについても 7 割近い回答となっております。</p> <p>男女別の順位で見ますと、できるだけお金がかからず利用できるというのは、中学・高校とも第 1 位です。それ以下の回答についても、中学生の男女と高校生の男女はほぼ同じような傾向を示しております。</p> <p>「夜 9 時ごろまで利用できる」の回答については、高校生が中学生よりも高い回答となっております。また、自分たちの意見を取り入れる、施設の運営に自分たちも参加できるという参加意欲等については、若干低い回答となっております。</p> <p>22 ページ以降は悩み事で、直接的に居場所というよりも今の中・高校生を取り巻く状況を調べております。問 6 - 1「今困っていることや悩みごとはありますか」は、全体では勉強や成績のことが 6 割を超え、次に将来や進路のことが 5 割で続いております。</p> <p>男女の悩み事の上位 5 位を見ますと、男子では中学生と高校生の回答が 4 項目同じ、しかも第 1 位から第 3 位までは順位も同一となっております。</p> <p>女子の中学生と高校生は、回答項目は 4 つが同じですが、順位は男子のように中・高校生が一致していません。特に中学生女子の第 3 位の友達や仲間のこと、第 5 位の性格のことと回答した率は男子や高校生女子と比べて高い回答率となっております。</p> <p>24 ページ、25 ページは悩み事や心配があるときに相談するのは誰かという質問です。こちらは全体と第 5 位まで記載しております。</p> <p>全体では同年齢の友達が 6 割を超え最も高く、次に母が約 5 割で続いております。以下、父、兄弟姉妹、相談する相手がいない、年上の友達・先輩と続いておりますが、誰にも相談しないという回答がどの対象者でも一定の割合で見られます。</p> <p>男子と女子の上位 5 位を見ますと、女子では中学生と高校生の回答が 4 項目同じで、1 位から 3 位までは順位も同一となっております。</p> <p>男子中学生と高校生の回答は 5 項目が同じですが、1 位から 4 位まで、女子のように中学生と高校生が一致している順位はありません。相談相手として母と回答した率は高校生男子が最も低く、父と回答した率は高校生女子では上位 5 位にも入っておらず、相談相手については性別による顕著な違いが生じていると見られます。簡単ですが以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>そうしましたら、委員の皆さんからご意見をいただくこととなりますが、1 ページ、2 ページはいいとして、4 ページ、5 ページあたりから順番に少しご意見を伺いたいと思います。ご質問等含めていかがでしょうか。まず、平日の放課後の活動ですね。</p> <p>これはよろしいですかね。男子はゲーム・インターネット系が高く出ている、高校生の女子はこんなにアルバイトに行っているんですね。ちょっと気にかかるのがカラオケとか、高校生男子あたりでこの辺が出てきているあたりですかね。これが多分後ろのほうの質問とリンクしてくるような傾向になってくるのかなとは思いますが、よろしいですか。</p> <p>続きまして、6 ~ 7 ページです。平日の放課後をどこで過ごすかというあたりですが、中学生は割と男子は公園が多いんですね。これはスポーツですかね。公園でスポーツというのは、杉並区はできるところとできないところと極端に分かれますよね。この中学校の近くというのは、スポー</p>

	ツ公園に近いのですか。
委員	井草中はそうです。
会長	井草中は近いんですね。ほかはそうでもない。
委員	やはり、小さい公園だとちょっと……。
会長	サンプルはクロスをかけてみないとわからないですね。
児童青少年課長	スポーツができるというと、どのくらいのレベルのものをやっているかというのがここからはなかなかうかがい知れない部分もあります。
会長	そうすると多分公園との距離とかも出てくると思うので、これは学校別のクロスをかけてみるといいですね。
委員	前回は話のあったように、区のスポーツ施設については部活動の団体・グループであらかじめ団体登録をして利用するケースは若干あります。しかし、有料施設で余り中・高校生に着目した低廉な料金設定もないという中で、利用の度合いが低かったということがあったと思います。そういった意味でいうと、確かに杉並区は、公園では野球等の球技が基本的にはできず、中では、中・高校生が気軽にスポーツをできる場は十分に確保されているとは言えない面があります。
会長	そういう背景でこの18%は何だろうということですよ。
委員	そうですよね。
子育て支援課長	クロスですが、学校名をフェースシートの中に入れておりませんので学校別は難しいです。
会長	もったいないですが、しょうがないですね。
児童青少年課長	公園の場合ですと野球とかそういったことは、運動公園という形で予約制とかが多いので、一般的に公園で球技ができる場所だとバスケットコートが多いと思われます。 「ゆう杉並」の利用頻度から考えてみても、もしかしたらバスケットが結構多いと推測できると思います。あとは街中を見ている限りでいうとスケートボードといったものなども考えられると思います。
副会長	ここは平日の放課後なので、これは1位が自分の家で2位が学校というのは、時間的なとらえ方もまた回答者によって違うんですね。学校というのは、放課後は部活動をやっているというのとらえと、部活動が終わってから家でということですから、時間的なところが見えてくると（授業が）終わって部活、そして7時以降ぐらいが家とかですかね。
子育て支援課長	上位3つまでということなので、多分副会長のおっしゃるとおり、学校、自分の家で、その中に1つみたいなのところが多いのではないかと思います。
会長	放課後と聞いてしまったので、どうしてもそこがまずかったですね。部活動以外でほかはどこで過ごしますかとすればよかった。 高校生たちで気になるのが、ファストフード店とか「ゆう杉並」が高かったのは、この高校が近いというのがありますが、その下の街中で集まれるところとか、高校生男子だとやはりゲームセンター、カラオケボックスあたりが割合的にかなり高く出てくる。高校生たちはこういうところに行ってしまうんですね。 特に女子なんかですと18.8%がファストフードとか飲食店と、かなり高い率の人たちが行っていることになりそうですから、そういうのはこの辺で読み取れるのかなと思います。ほかに何かございますか。

委員	<p>この高校の名前を見ると、この2つの高校が善福寺川公園の近くにあるので、恐らく帰り道に寄る公園といったら自由に出入りできる善福寺川公園に行っていると想像しました。</p> <p>中学生は場所が違うので、きっと小さな公園におしゃべりするために行っていると思いますが、この公園は恐らく高校生の場合は善福寺川公園ではないかと思います。川なので全然出入りが自由で、たまっている、踊っていても何も怒られない場所があるので、そこに行っているのかなと思いました。</p>
会長	意外と図書館とか低いですね。
委員	図書館は少ないですね。体育館とか運動場が十数パーセントあって、その半分もいかないのはちょっとショックです。やはりしゃべれないというところが弱点ですかね。
会長	それと今回のポイントになる児童館ですが、涙が出そうな数字ですね。これは利用時間の関係でアクセスが多分高校はできないんでしょうね。6時で終わってしまえば、高校生たちは対象にならないんですかね。特に女子なんかゼロですから、回答の後ろのほうにしゃべりたいとかありますが、ここはショックな数字ですよ。
委員	例えば体育会系とか文化系の部活動をやっている方とやっていない方に分けてデータを集計してもらいたいと思いますが、いかがでしょうか。
子育て支援課長	体育会系・文化系については、クロス集計は可能です。今回は単純計ですが、もう少し分析したものをお出しできると思います。
会長	<p>そうするともう少しこれが見えてきますね。</p> <p>続いて、8、9ページの誰と過ごすかですが、これは何か男の子のひとり立ちがよく見えますね。ただ、1人で過ごす子たちがこれだけ多いというあたりもどう考えるかだとは思いますが、いかがですか。3割近い子たちが放課後は1人です。</p> <p>多分これは学習塾とかに行ってしまうので1人という回答にもなるのかとは思いますが、学習塾の率は前のページに戻りますと、高校生はそんなに高くなく1割弱なので、本当に1人で家に真っすぐ帰ってしまう子たちが結構多いというのが、逆にこういうところで見えてくるのかな。やはり居場所というところに行っていないで、直帰してしまうような傾向が高いような感じですかね。これはいいですかね。</p> <p>続きまして、10、11ページは学校が休みの日の過ごし方です。ここは結構気になる数字がいっぱい出てきます。ゲームはゲームですが、女の子はやはりショッピングに走る。これは杉並らしいんですかね。</p> <p>おしゃべりというのが高校生になると少しふえてくると、やはりカラオケとかバンド活動もそうですが、アルバイトとかこの辺を含めて、びっくりしたのが中学生の女子で、行き場として休日に6.8%と結構高い率でカラオケに行っている。こういうところも何か引かかるのは、一方で健全育成と言いながら、カラオケとかこういうところに子どもたちが行かざるを得なくなってしまうんですかね。こういうあたりの数字をどう読むかだと思いますけれども、いかがですか。</p>
委員	おしゃべりできて何か飲めて、長時間いても誰からも言われないところにまさにはまっているんでしょうね。
会長	カラオケぐらいしかないんですかね。
副会長	料金も安いしね。
会長	今は安いですね。

副会長	割り算すると。
会長	<p>ただ、カラオケはどうですかね。この辺は考え方ですが、いろいろなカラオケ店があるので何とも言えないですが、カラオケがいいとかということではなくて、ただお金を使ってそこに集まっていく状態で、ここにアクセスできる子たちの質の問題を考えれば、お金がある子たちはアクセスできるけれども、ない子たちはここには行けないわけですよね。そうすると、どのようにこういう問題を考えていくのかというあたりが、こんなところに出てくるんですかね。</p> <p>子どもたちの生活でいうと、杉並らしいといえば杉並らしいかもしれないですね。この辺はよろしいですか。</p> <p>では、続きまして 12、13 ページで学校の休みの日はどこで過ごすのかという、前のページとリンクする部分ですけれども、高校生ですとやはり特に女子が高いですね。やはりおしゃべりの場なのでしょう。ファストフード店とかが高くなってきていますね。</p> <p>さっきのお話とくつつくかどうかわかりませんが、やはり中学校の女子がゲームセンターとかカラオケボックス、街中の集まれる場所の割合が比較的高いですね。ですから、女の子のほうが集まっておしゃべりたいという傾向が出て、その場所が全体的にこういうところに寄っていているのがここで読み取れるのですかね。</p> <p>「ゆう杉並」の利用率を見ても男子が高いので、スポーツ系で使う傾向が高いんですかね。「ゆう杉並」の利用率の中で、やはり体育館があれだけちゃんとしているから、やはり女子たちが割と入れないんですかね。それはどうですか。</p>
児童青少年課長	体育室に関しては確かに男子生徒が使う率が高いかと思います。
会長	「ゆう杉並」は、談話室とかああいうところはどうですか。
児童青少年課長	「ゆう杉並」の場合は談話に関してはいわゆるロビーになりますが、ロビーは土曜日の午後になるとやはりほぼいっぱいになります。
会長	あとはどうですか。これを見ていて区民集会室とか何とかもそうですが、児童館に関しては本当に涙が出るような数字が出て、その他が何かよくわからないのですけれども。
委員	児童館については、この間のいろいろなリサーチでも、小学生とか乳幼児の親子とかがいる中で、中・高校生がなかなかゆったりとした時間を獲得できないというような環境、そんなところも課題だったように受け止めています。
会長	土日開館は、土曜日に児童館は開いていましたか。
児童青少年課長	土曜日も開いています。
会長	日曜日は閉めている。
児童青少年課長	地域館だけは開いています。
会長	あとは違う。児童館もこれを見ると男の子のほうやはり行きやすいんですかね。
児童青少年課長	そうですね。いわゆる学童クラブに通っていた子たちが卒業後、中学生になっても通うというか、場所をよく知っているというのもありますので来ていると思います。
会長	高校生の女子がゼロというのはやはりそれなりに対策を考えないと、この時期の女の子たちが行っているのがファストフード店とかそういうところになるのですが、女子はほかのところ集まっているわけですから、

	集まりたいというニーズはあるんですよね。だから、そこに児童館がうまくマッチしていないんでしょうね。やはりゼロというのはそういう意味ではショックな数字だと思います。
委員	前回の資料にもあったのですが、比較的規模が大きい児童館であっても、中・高校生の専用スペースが十分確保されていない。だから今、会長からお話がありましたが、居場所としてのあり方、専用スペースとか時間帯のあり方とか、そういうところを課題認識として持つべきだろうと思います。
会長	この数字からもそれが少し見えてきますよね。
副会長	中・高校生と今ひとくくりにはしていますが、やはり中学生と高校生では全然違いますよね。やはり中学生対象、高校生対象という視点を持たなくてはいけないですよね。
児童青少年課長	体を動かすとか何か目的のある部屋が多いというのがありますが、自由に飲食しながら談話ができるというようなスペースが十分確保されているかというところでもないの、この傾向から見えていくとそういう要望とはマッチングしていないと思います。
副会長	データを見るとやはり高校生の男子と女子でアルバイトがこんなに違うんですよね。高校生の女の子はアルバイトに行ってしまう。
会長	収入だけとは思えないので、そこに何を求めているかです。割と女の子全体を見るとおしゃべりしているという傾向、しゃべりたいという傾向が統計からいっぱい出てくる中で、コミュニケーションを求める場所がアルバイトとなると、子どもたちを育てていく中で、アルバイトでそれを満たしているのか。区内でどこかもう少し子どもたちが気楽に集まれる場所がなければいけないというのは、これを見ていると感ずきますよね。 女の子はおしゃべりに走るからアルバイトが多いのかもしれないけれども、それだけではないような気がします。その辺が意向調査でよく見えてこないのですけれども。
委員	事務局にはお手数ですが、やはり部活動の有無で分けて、集計してみる必要があると思いますので、よろしくお願いします。
会長	多分これは3ページのところですかね。高校生女子でいいますと半分以上がスポーツ系ではなく文化系に入っていますので、この辺にクロスをかければもう少し出てくるのかな。だから、この辺が高校生女子とか何かの居場所を考えているキーワードになってくるのではないですか。 要するに部活で忙しくない子どもたちの行き場としてどう考えるのかというとき、スポーツをやっている子たちは土日も、特に高校生になればインターハイに追いかけているので、多分休みはないですよね。 特に高校生女子の半分以上がスポーツ系でなければどうしているかということだと思っているので、おっしゃるようにクロスをかけていただければ大変ありがたいと思います。
副会長	これでいくと高校生は男子と女子でお小遣いとか、1カ月に使う金額がどれぐらいか、必要だからバイトに行っているのか。
会長	相乗効果はあるんじゃないですか。高校生になると、お化粧品もし出すし、多分おしゃべりに使う率とかが高くなっているでしょうね。
子育て支援課長	そういった意味では、今日は第2部で現役の中学生・高校生と1時間ほど懇談する機会がございます。
会長	一番難しいのは、本当に行き場を失ってしまっている子たちへのアクセスというのが、こういう調査もそうですし、呼び集めてもそういう子たち

	<p>は来ないので、そこをどう配慮するかというのが今後1つの視点ですよ。そこにやはりアクセスしていかなかったら、福祉としての居場所が子どもたちを守るというところに機能しなくなってしまうし、積極的な子はほうっておいても「ゆう杉並」にも来るし、あちこちに来るわけですから、そこをどう見るかですよ。</p> <p>児童館とかそういうところがどのように機能するかといったときに、こういうところに行けない子たちがいるわけですよ。1人で悶々としている子たちがいて、その子たちへのアクセスという視点のときにどう(考えるか)。きょうの懇親会は多分積極的な子たちが来ていると思うので、それを少し割り引いて見ていく必要があると思います。</p> <p>でも、来ていただける方々の意見は貴重だと思います。あとその辺はよろしいですか。</p> <p>誰と過ごすかというあたりも含めてあわせていただくと見やすいのですが、ここでも気になるのは1人でということです。これもさっき言いましたように、説明の仕方もいろいろあるので難しいのですが、それでも率が高校生と中学生を比較すると、倍以上に上がるあたりで、これをどう見るかですよ。さっきの行き場の問題とこの辺の参加とを見ますと、女の子は割と家型が多くて、男の子は家よりも外が多いけれども、それでも1人で過ごす率が高いとなると、ここで高校生の課題が出てくるんですよ。</p> <p>割と引きこもりとかというのは、女子よりも男子のほうが多分比率は高い。杉並もそうですか。その統計はまだないですか。</p>
生涯学習推進課長	ないです。
会長	統計がないですかね。
生涯学習推進課長	引きこもり関係はありません。
会長	<p>一般的にはそういうふうに言われているとなると、やはりこのアンケートからも、家族と過ごす率が女子に比べれば31%なのに、1人で過ごす子は40%、女子とこれで10%くらい違いますから、今度はこの辺の男子高校生たちですよ。部活とかそういうのに乗っかっていない子たちの問題が出てくるんですかね。</p> <p>男の子はちょうど思春期で、ひとり立ちする時期ではあるんですよ。ですから、全部が全部そうではないと思いますが、その辺で少し引かかる数字ではあるのかな。</p> <p>これは各高校と中学校と全数調査に近い形ですよ。</p>
児童青少年課長	はい。学校にお配りしてホームルームとかそういったところなどを活用してやっていただいているので、ほぼ全員が回答しています。
会長	<p>そうすると、割とこの数字は重い意味を持ちますよね。任意ですとこれに回答しようと思う子たちだけでも、全数調査に近いので高校生とか中学生の実態が出ているのではないですかね。</p> <p>この辺ですよ。それこそ引きこもりとか、そういう対策の中でこの数字に出てきたときに、男の子たちをどのように見るのかというのはあるんじゃないですかね。</p> <p>あとは何かここからの数字で気がついたことはありますか。</p> <p>今度は学校以外で過ごせる場所ということです。これもまた男女で全然違う傾向ですよ。</p> <p>これはどう見るかですが、例えば女子に共通しているのは、ダンスとか静かに勉強できる場所とかが、中・高校生とも男子よりはるかに高く、す</p>

	<p>ごく特徴的な数字を出していますね。</p> <p>スポーツの要求というのは中学生が突出して高く、高校生はそんなでもないですが、あとはそんなにそれぞれ男女差はない。あとはたくさんの友達が集まってくるみたいなのは、男子も上がってきていますが、むしろ高校生女子は、そこは回避するんですよね。そうすると群れるよりも気の合った友達と集まれる場所みたいなのは高校生女子ですかね。</p> <p>一方で、ダンスとか静かに勉強できる場所ということになると、本当に何か要求が違いますよね。</p> <p>すごく気になるのは、中学生女子の悩み事を相談できる場所が欲しいというこの 13%がほかよりも突出して高いんですよ。この辺は調査を見ていて、このサンプルの問題なのかどうかを含めれば、中学生女子はいろいろあるのかなとは思いますが。その相談先が意外とないので、例えば児童館とかでそういう相談が気軽に受けられて、思春期の子どもたちのサポートとしてはもう少し気楽なお兄さん、お姉さんがいないと、これは多分相談にならない。相談コーナーとか相談室だと多分来ない。学校にもスクールカウンセラーとかありますからね。</p> <p>この子たちのこのニーズをどうとるのかといったとき、アクセスしやすい相談となるとどうですかね。やはり中・高校生たちがいて、いいお兄さん、お姉さんたちのモデルがいてみたいにしないと、多分アクセスしてこないでしょうね。</p> <p>専門の職員がいて、臨床心理士がいるからおいでなんていったって絶対来ないので、何かその辺は新しいその居場所の中で何か必要ではないのかな。たしかこれは高校生女子のどこかでそんな傾向が出ていたような気もしましたが、そこはこの数字を見ていて感じたところです。特にここが高いので、これはサンプルの問題というより、中学校は4校くらいやっていますから全体的な傾向としてこうなのではないですかね。</p>
委員	<p>そうですね。中学校は区立6校でやっていますからね。会長がおっしゃったところは、後に悩み事の具体的な項目があるわけですが、そのあたりを含めるともう少し見えてくると思います。</p>
会長	<p>方向が出てきますかね。この辺はよろしいですか。</p> <p>次は身近にあったらいいと思う場所ということですよ。これもお金はかけたくないというのはわかりやすくいいですが、夜9時までというのは、全体の統計では比較的低いですが、数字を見ると中学生男子が37で、中学校女子はさすがに低いですが、高校生の男子・女子ともに、使える時間ではないんでしょうね。これはこの辺の数字で出てきているのかと思います。</p> <p>同じような傾向が日曜日・祝日も利用できるというところに数字であらわれていますので、そういう気楽に使える場所という意味では、特に中学生ですと日曜日に行き場がなくなってしまうんでしょうね。この辺は、考えていく上で少しポイントになってくるのかな。</p> <p>高校生ほど長くとどまりたいから、ちょっと食べるものが欲しいにやはりつながるんでしょうね。これはなかなか管理が難しいですけども。</p> <p>今度は悩み事が先ほどのところとリンクしてくるのですが、女子が多いのは、友達とか性格のこととかで、これは中学生の女子が突出していますね。ですから、普通の相談員では解決できないことになりますから、身近なお兄さん、お姉さん方のほうがこういうところはアクセスしやすいでしょうね。ちょっとした先輩ね。</p>

委員	第1回目の懇談会では、副会長からも、大学生とかそういった近いところとのネットワークというか、そういう議論がありました。
会長	<p>リーダー育成というよりもコースによるサポートの仕組みが何かうまくソフトとして組み込まれていくと、こういうところに答えていけないではないでしょうか。</p> <p>それが数字でこのように出てくると、これはすごく大事ですよ。いじめ問題とかいろいろ言われている中・高校生女子が一番多いので、女の子のいじめが一番過酷なんです。過酷というと怒られてしまうけれども、なかなか修復が難しいのが女子なので、そういう意味では気楽に来てもらえれば……。ここは難しいですよ。</p> <p>教育と福祉がうまく連携しなければいけない部分になってくるので、学校との情報共有の問題とか、福祉のサポートとメンタルですから保健センターとかかわりとか、その辺をうまくどう串刺しするのが、今の仕組みだとどうですかね。教育センターとうまくそこが連携できるかどうかです。そういう課題はやはりこの世代の子たちは持っている、その隙間に落ちてしまうのがいじめ問題とかそういうことではないですか。それが引きこもりとかそういうところにつながっていかないようにしなければいけないので、その辺をどう考えるか。この悩みごとの中ではこんなに大きい数字が出てくるというのはびっくりですよ。</p> <p>この辺はいかがですか。これは高校生男子も、異性のことはやはり悩むんですかね。そうするとやはりこれは大人には聞けないでしょうね。これは意外と高くてびっくりしたのですが、高校生男子もこんなに高いんですか。こういうところのサポートあたりが、やはり大事になってくる。今、居場所といってもただ楽しくしていただけるということではなくて、何かそこにそういうものがついていかないと、何か置く意味がなくなってってしまうので、こういう数字からもそういう仕組みの必要が見えてくるのではないですか。</p>
副会長	<p>ですから、これとあわせてやはり今ハード面だけではなくて、高校生は人に会いに来るところがあると思うので、そういったところが職員なのか大学生なのか。何かこの人と話をしたいというような関係ができるような、ハードとあわせてそういったソフトも考えていければいいと思います。</p> <p>あと前のところで、自然の中でほっとできる場所が欲しいというのは、何か疲れているというような感覚、何かに追われているからボーッとできるような空間とか時間を持ちたいのかなという感じがします。</p>
会長	<p>すごく気にかかるのは、高校生になると2割以上はお金のことが悩み事だと出ているんですよ。これは何ですかね。公立の高校ですが、これがアルバイトに直結していくんですかね。何に使うかでお金の悩みもあるかもしれない。結構これは高い数字だと思いませんか。</p> <p>お金のことは中学生もそんなに低くないんですよ。これは一般的な感覚でいうと、中学生ぐらいでお金のことで何に悩むんだらうと、逆に我々大人だと考えがちですよ。何に悩んでいるんですかね。中学生でお金に悩むというのは何ですか。この率は2割近いですよ。</p>
副会長	何に使うんですかね。
会長	何を考えて悩むんですかね
委員	さっき会長からもありましたが、設問の項目でなかなか掘り下げたところまでは見えないところがありますね。

副会長	<p>時代的な背景もあってやはり親御さんの経済状況が大変厳しいというところもあるんですね。</p> <p>地元は足利ですが、進学校とそうではない学校だと今、授業料は一応栃木県立が9,500円で免除になっていますが、その払っている段階の時代においては、やはり進学校ではほとんど完納されていますが、そうでない学校の子どもたちの納入が悪い。それはやはり親御さんと呼ぶと、もう本当に大変厳しい状況で、子どもにアルバイトしてもらって、それが生活費に入っているような状況もあるんです。</p> <p>あと、ひとり親家庭はそちらが多くて、やはり経済的な困窮で子ども自身が自分のために使うというだけではなくて、生活にまで回しているというような家庭があります。すべてではないと思いますが、そういう家庭全体の経済的な状況もここに何か出てきているのか。</p>
会長	<p>あとは杉並区でいうと、私学への進学問題が中学生で、高校生は私立大学への進学問題とかあるんですね。わからないですけども、少し高い数字ですよ。貧困率でいうと15%で、杉並がどのくらいかわかりませんが、そんなにいかないはずですよ。</p> <p>24、25で言いますと、これはよくいろいろな統計にあるので、お父さんは頑張れよという結果がわかりやすいのですが、気になるのがやはりこの相談相手がないところで、男子中・高校生に比較的高い数字が出ている。誰にも相談しないという率が5%台に近いですが、この率をどう見るのかですよ。こういう中でさっきのいろいろな問題とか何かで、この数字が決して低くないように私は感じるのですが、そこら辺をどう考えるか。</p> <p>アンケートからのご意見はよろしいですか。そうしましたら続いて、他区の施設の様子があるようですのでお願いします。</p>
子育て支援課長	<p>(これよりスライド使用)</p> <p>では、議題の2番目です。他自治体における中・高校生の居場所施設の状況です。スライドとこの資料2とお手元のパンフレットでご確認ください。</p> <p>まず、一番上のさくら橋コミュニティセンターです。こちらは外観で、3階建て、墨田区にございます。位置づけとしては児童厚生施設です。「ゆう杉並」も参考にさせていただきましたが、児童館事業では老舗と言われている雲柱社が指定管理による運営をしております。</p> <p>こちらは開設時間が平日は9時から夜8時まで、小学生の利用は6時までということで、これ以降については中・高校生専用ということですよ。</p> <p>主な施設はロビーと体育室です。割と広く、このようにバスケットができるような体育室がございます。それと図書室、こちらが乳幼児室で、乳幼児が過ごせる場所です。こちらが学童クラブ室です。中・高校生は乳幼児室、学童クラブ室以外は利用可能です。中・高校生専用スペースはございません。</p> <p>中・高校生利用の実態ですが、この施設の1日の利用が約200人、そのうち中・高校生の利用は10%で約20人です。午前中は先ほど示したような乳幼児室で親子が中心に利用します。中・高校生はこのような体育室、音楽室を主に利用しています。</p> <p>次にティーンズプラザ八潮です。こちらが外観で、3階建てです。やはりこちら児童厚生施設ですが区の直営です。利用時間が午前9時から夕方6時まで、ただし火水は夜9時まで利用が可能です。火水の6時から9時が中・高校生タイムです。こちらの主な内容ですが、スポーツ室、競技専用コートということでバレーボール、バスケット等ができる部屋で、こち</p>

らがホールです。

たまたまこのときは、近くのお祭りにティーンズプラザ八潮としてどのようなものを出すかで中学生と高校生が検討していました。

こちらがこのティーンズプラザ八潮で非常にポイントになる音楽室です。これがライブスタジオで、音楽室で練習した成果を披露する場所です。かなり専門的な機材を設置しております。

こちらがクラフト室(工作室)です。結構いろいろな細かいものがありました。ただ、ここの部屋の利用がそれほど多くないということでした。

こちらが乳幼児室です。午前中は乳幼児親子の利用があるということです。

こちらの施設はすべて中・高校生の利用が可能です。中に中・高校生専用スペースもございます。併設施設として図書館と公園が併設されています。1日当たりの利用人数は約170人、そのうち中・高校生が約35人で、午前中の利用はやはり先ほどのさくら橋コミュニティセンターと同様に乳幼児が中心です。

3つ目の中・高校生センタージャンプ東池袋は、2階と屋上を利用してあります。併設施設として子育て広場がございます。位置づけとしては児童厚生施設で区直営です。

こちらは区民広場と子育て広場です。こちらが子育て広場の中の乳幼児室です。利用時間は平日の9時から夜8時まで、中学生は午後7時までで、高校生は午後8時までです。

利用施設としては先ほど言いました乳幼児室のほか、音楽室です。これが音楽室の入口です。ちょうど中学生らしき人が音楽室を使用していました。

これがプレイルームです。こちらもプレイルームです。こちらが屋上コートで、屋上にこういう施設がございます。ここが相談室です。中・高校生は乳幼児室、学童クラブ以外利用可能です。区民広場施設併設です。

1日当たりの利用人数は約50人で、中・高校生別の利用は把握していないということです。

ただ、中・高校生は主に音楽室等の利用で、午前中の中・高校生の利用はほとんどないということで、この施設の利用実態から、今は午前9時からオープンしていますが、午前11からの開館を検討しているそうです。

次は共育プラザ葛西です。こちらは3階建の1、2階、屋外スポーツ広場を併設しています。位置づけは児童厚生施設です。利用時間は朝9時から夜9時までで、中学生は午後7時まで高校生は午後9時まで利用可能です。

こちらが屋外のフットサルのコートです。こちらがスポーツ室です。こちらが音楽学習室で中・高校生専用です。こちらが学習室で、音楽室、学習室が中・高校生専用です。子育て広場については乳幼児専用です。中・高校生は子育て広場以外が利用可能です。

こちらが子育て広場です。1日の利用人数は約210人で、中・高校生は3分の1の65人程度。ただ午前中は乳幼児親子が中心です。中・高校生の利用は音楽室、スポーツ室、学習室が多いということで、中・高校生指導員は午後2時からの勤務になっています。

次が武蔵野プレイスです。この建物は地上4階、地下3階で、地下2階に青少年フロアという施設があって、そこが小学生も利用可能ですが、主な利用は中・高校生です。こちらは写真不可だったので、お手元にパンフレットがございますので、そちらを一緒にごらんください。

	<p>実は地下2階の奥にあるのが青少年フロアです。このように机といすがありまして、自由に使うことができます。</p> <p>武蔵野プレイスは、開館時間と中・高校生の利用時間が午前9時半から午後10時までとなっております。施設のメインとしては青少年フロアで、パンフレットにもございますが、スタジオラウンジとかオープンスタジオ、サウンドスタジオ、パフォーマンススタジオ等ございます。この施設自体は中・高校生専用ではございませんが、この施設の中にこのような学習場所等がございます。ここはワーキングデスクという形で有料です。先ほどは無料だったのですが、こちらは有料でパソコンも使え、仕事にも使えるようなスペースがございます。これは青少年フロアではございませんが、この施設の中にあります。</p> <p>青少年フロアは大体1日あたり500人の利用がございまして、そのうち約半数が中・高校生の利用です。特に夏休み中のスタジオ利用はほぼ100%です。そこに料金も書いてありますが、一般利用と中・高校生の利用料金には非常に差があります。オープンスタジオは一般の人も、中・高校生が利用していない時間は使えるのですが、料金は大人だと中・高校生の10倍かかることになっています。</p> <p>最後の調布市の青少年ステーションCAPSです。地上3階建て地下3階建て児童厚生施設です。こちらはNPO法人「ちょうふこどもネット」の事業委託による運営です。</p> <p>利用時間は午前10時から午後8時までです。こちらは一応児童厚生施設ですが、利用は中・高校生専用で中・高校生に特化しています。</p> <p>こちらがロビー、ステージ、ダンススタジオ、音楽スタジオ、クラフト室、屋上のスポーツエリアです。こちらが屋内のスポーツエリアのラウンジです。</p> <p>こちらの特長としては、こういうCAPSカードというのがあって、ここを通りますと、このような形でポイント制になっていまして、一定のポイントがつくと特典があります。</p> <p>1日当たりの利用は約100人で、ほぼ100%が中・高校生の利用です。中・高校生の利用が午後からが主ですので、午前中はほとんど来場者がいません。高校生からは、今は午後8時までの利用時間ですが、さらなる開館時間の延長希望が多いということです。</p> <p>この表の最後は第1回でご紹介した「ゆう杉並」を対比の意味で掲載しています。一応この1から6の施設は、児童青少年課と相談しまして、割と中・高校生に特化、または中・高校生の利用が多いといわれている施設について、子育て支援課の職員がそこに行き、担当の職員の方に話を聞きまして、この表をまとめたものです。簡単ですが以上です。</p>
会長	<p>今それぞれの施設についていろいろございましたが、ご質問等ございますか。</p> <p>印象として中・高校生施設にした場合、学校時間帯をどう活用するかが各自治体の課題でしょうね。勤務時間をずらしているところとか、開館時間との対応を含めてそこをどう考えるかで、ほとんどのところが今やられているのが広場事業ですかね。</p> <p>ただ、広場をやってしまうとそのスペースが開放できない。そこら辺をどうするかですよね。</p>
子育て支援課長	<p>中・高校生の利用が多いと聞いていたのですが、各施設に行ってみると乳幼児の利用のほうが数として多かったです。</p>

会長	<p>広場は場所をとりますからね。それから、設備と衛生を含めてちゃんとしなければいけない。そうすると例えばそこがとられてしまうと、中・高校生にとってみれば結構大事な場所で、さっきの図書館の一角がそれとられてしまうと、あそこはごろごろできないわけですよ。その辺をどう調和していくのかが結構課題ですよ。</p>
委員	<p>会長のお話は本当にそのとおりだと思います。やはりどんな居場所をつくったとしても、平日の午前中は当然学業が中心と考えたときに、いかに効率的・効果的な運営を図るのかが大きなポイントです。</p> <p>今まで杉並区もそうですし、児童厚生施設として紹介があったところは、大体乳幼児親子広場をやっている。しかし、それだと今、会長からご指摘のような課題もある。</p> <p>一方、ほかのところでも少し参考になりそうなのは、例えば武蔵野プレイスは、そこは割り切って、午前中のスタジオ等は一般利用に供することとし、料金を中・高校生利用よりも格段に高く設定している。それでも結構利用されているし、さらに開館時間そのものを柔軟にするといった工夫他がされています。このあたりは新たな居場所づくりにあたって、よくよく検討する必要があると思います。</p>
会長	<p>青年期まで視野に入れれば、武蔵野プレイスみたいな使い方は1つのヒントですよ。スタジオとかを空けておくのは、言い方はおかしいですがもったいないですよ。</p>
委員	<p>それともう一つのポイントは、施設のありようを考えたときに、コースとのつながりをどのように考えていくのかだと思います。加えて、効率的・効果的な運営を考えたときに、やはり中学生専用、高校生専用と別々につくるよりは、むしろつながりを意識して中・高校生が専用的に利用できるスペースを確保するように考えていくべきではないかだと思います。</p>
会長	<p>そうするとすごく難しいのは、午前中の利用とか何かが、この福祉型施設というよりも社会教育施設との連携というか、並存型みたいになりますよね。集会施設とか社会教育関係の施設が青少年とか大人向けに開くわけじゃないですか。そういう性格を持たせたときに、行政とすれば両方を持つのは無駄になってきますよね。</p>
委員	<p>そこで例えば同じ1日開館するときに、中・高校生の専用時間帯とかそういった工夫、発想といったところがかみ合わせていかないと、会長からお話しいただいたような効率的・効果的な運営はなかなか実現しないと思います。</p>
会長	<p>難しいですよ。社会教育施設として、例えば集会施設なんかだと夜10時ぐらいまで開いてくれないと、NPOとか大人の会議も開けない。特に杉並はNPO活動が盛んですから、あの方々が一番困っているのは会議する場所で、集会でこういう施設を使うとなると開館時間も中・高校生だけに合わせるのではなくて、何かそういう使い方も含めて大人からはお金を取ればいいわけですからね。</p>
委員	<p>そうですね。</p>
会長	<p>それを設備とか、そういうのに還元できるとか。ここは、行政はお金を取っても吸い上げられてしまってそこに還元されない。指定管理とか何かいろいろな工夫をして、それらが還元できるような仕組みをつくらないと、せっかくお金を取っても、それが中・高校生たちのところに利益として還らなければ、中・高校生たちの利用制限につながってしまいますよね。やはり大人たちのほうがそこは動き出すとすごく大きなエネルギー</p>

	ギーになるので、その辺のバランスが大事だと思いました。
委員	<p>今、午前中の活用の話がありました。説明の中で乳幼児の利用とあったけれども、発想を変えて、午後は中・高校生で午前は中高年というか。地域デビューをしようとしている60歳前後の方が、実際、社会教育センターで、平日の午前中にテーマを設け、半年間、ゼミ形式でやっていますので、需要はあるのではないかと思います。</p> <p>音楽室とかも午前中の中高年の部活というか、そういう活用は十分得られるという意味で、すみ分けはできると思います。</p> <p>あと、取れる方からは料金を取って、それがうまく全体の運営に活かせるようになってくればおもしろいとは思いますが。</p>
会長	区としてはなかなか難しいマネジメントをしなければいけない。社会教育部門と中・高校生の居場所となると、健全育成でいくわけですから、そのマネジメントをどうするかが行政の場合は結構難しいですね。やっているところはあるけれども、そうすると指定管理に結局なるわけですね。
委員	武蔵野プレイスは、行っていないけれども、そういう意味では青少年部分と図書館と市民活動と生涯学習部分が分かれているものね。
会長	図書館まで入れているわけですからね。
子育て支援課長	あそこは図書館を併設しているそうなので教育委員会所管だとは言っていました。
委員	<p>第1回目のときに中・高校生の居場所を考えたときに、余りうるさくしないでとか、出ていってとか言われなような、少しやんわりしたのは居場所が必要というご意見がありました。</p> <p>そういったことを考えたときに、区の第1回目の資料でもありましたが、現在、教育委員会で2つの小学校の余裕教室を活用して「ゆうゆうハウス」という学習スペースを改造していますが、今後はそういった機能もきちんと吸収して、地域バランスも配慮しながら、談笑でき、また学習等もできるような居場所を整備していくことも検討すべきだと思います。</p>
会長	<p>この後の子どもたちの調査を見ると、アクセスしやすい場所というのは結構大事みたいで、駅に近いところという聞き方をしていますが、行きやすいところですね。そうすると1回目でも論議しましたが、場所によってどういう性格を持たすのか。全部が全部、武蔵野プレイスみたいになる必要はないと思います。</p> <p>例えば、図書館併設型となったとき、高校生の女の子たちの要望が多いけれども、自分たちがそこで過ごせる場所として図書館の専用的な、ここは中・高校生の女の子、男の子たちがいてもいいみたいなのができれば、性格分けができるじゃないですか。</p> <p>区の全体の施設の中でも、今できることが実はあるんですね。図書館なんて昼間はそのリタイアした方々でしょう。夕方以降はぱたっといなくなるんですよ。例えば、開館時間を延ばして、談話室を含めて17時から中・高校生タイムにするのは、今でも場合によってはできますよね。この一部のニーズは拾えるのかなとは思いますが。そんな組み合わせの工夫が必要ですね。</p>
委員	3年前まで中央図書館にいたのですが、図書館がまだない地域の話をしていて、今あるような図書館と同じものをつくってもしようがないから、例えば場所は商店街の中の空き店舗があれば借りる。本を多く置く必要もなく、パソコンで申し込んでその本がそこに届くような機能があればいい。

	<p>あとは個人学習室とグループで学習できる場所と、パソコンが少しあって軽い飲食ができる。そんなのがあれば一番ニーズも高いという話を図書館の者としたことがあります。何かその話ともすごく似ている気がします。今度こういったものをつくるときには、図書館の受け渡しコーナーの需要は高いと思うので、ぜひ機能には入れたほうがいいと思います。</p>
会長	<p>隣の区では駅前図書館をやっていますからね。そこに中・高校生というのが入ってこないんですよ。要するに図書館は図書館で、図書館のあり方委員会が立ち上がったときに、中・高校生たちのニーズは、学校図書館があるので居場所とかそういう形では余り考えてもらえない。</p> <p>でも、お母さんたちの話は出るんですよ。やはり一番抜けてしまうのはこの中・高校生たちですよ。だから、そこら辺が杉並区の行政のどこかでそういうプロジェクトみたいな形で、それぞれの社会教育施設などを含めて、武蔵野プレイスみたいにもう実際やっていらっしやるところもあるわけですので、中・高校生のありようを串刺しにできるといい。</p>
委員	<p>今のお話は本当にそのとおりだと思います。</p> <p>また、会長から話のあった交通アクセスの関係ですが、仮にユースも含めたつながりを意識した居場所づくりを考えたときには、やはり交通アクセスは大きなポイントになると思います。</p> <p>他自治体の6施設を見ても、5番目の武蔵野プレイスは駅から徒歩1分で、6番目の調布市のCAPSは5分、3つ目の東池袋が7分で、あとは最寄り駅から大体10分から15分ということです。</p> <p>中学生の場合は自転車で移動するということもありますが、高校生はいろいろ外から通っているということもあるので、中・高校生全体の利用を考えると駅近が望ましい。</p> <p>ただ、会長がおっしゃったようにそうした居場所をどのような施設と合築するかは、いろいろ考える余地はあるというだと思います。</p>
会長	<p>例えば大規模型の施設はやはり交通アクセスの問題もある。「ゆう杉並」はいいのですがやはりアクセスが悪い。あれが多分駅前であれば利用率は全然違うでしょうね。</p>
児童青少年課長	<p>徒歩15分ぐらいです。</p>
会長	<p>行き方がわかりにくいですよ。</p>
児童青少年課長	<p>そうですね。</p>
委員	<p>施設としての中・高校生の利用実態は、「ゆう杉並」はほかと引けをとらない状況にはありますが、立地上の課題はあるということだと思います。</p>
会長	<p>不便でもこれだけ使うというのはすごいですよね。</p>
委員	<p>そういう実績も踏まえながら、今後、他の地域での居場所づくりを広げていくことを考える必要があると思います。</p>
会長	<p>中学校区ごとに図書館とか、そういうところとうまく合併しつつ、何か中・高校生たちが寄れるような場所がもう一つないといけません。例えば、荻窪駅前とかにほんとにできたほうがいいけれども、杉並区はそこはすごく不便ですよ。荻窪の駅に向かっていくアクセスが、区内でまんべんなくいかない。これは東京全体がそうで、みんな都心に交通網が向かっている。</p> <p>そうするとやはり中学校区ごとに、何か既存の施設の中で違う性格でもいいと思うので、児童館あるいは先ほどおっしゃっていた図書館なんかを合わせれば、それなりにもう少し違う大きな機能を持ったものができる。</p>

	<p>どうせ合築するなら両方、福祉は福祉の分野だけではなくて、こういうところも全部くっついてしまうと、もう少しダイナミックな施設ができるのではないかと思いますよね。</p> <p>前にいただいた地図を見ていて思ったのですが、図書館も結構杉並は古いですよ。</p>
委員	<p>「ゆう杉並」は団体利用の場合は21時までとなっています。</p> <p>一方で、個人利用が夜7時までということで、そこをもう少し遅くまで利用できるようにするとまた違ってくるのではないかと思います。利用を広げていくためには、効率的・効果的な運営のあり方とあわせて考えていくべきだと思います。</p>
会長	<p>場所の問題ではなく、武蔵野プレイスは10時までですよ。それで水曜日休館で、ほかの休日は全部開いているのはやはり大きいのではないですか。この辺は18時に閉まってしまう。ほかを見ても利用が少ないところは、例えばティーンズプラザなんか見ても、ここは何で少ないかはわかりやすいですよ。週2日だけ19時で、あとは18時に閉まってしまうから中・高校生は行かないので、こういうあたりは時間的な問題もやはり大きいと思います。</p>
委員	<p>会長は世田谷区の事業にもかかわっているんですよ。</p>
会長	<p>そうです。どこもそうですが児童館がもう抵抗に遭いましてね。</p>
委員	<p>これは新聞情報ですが、世田谷区も京王線の千歳烏山駅の目の前に昔、信用金庫だったところを区が借り上げて、そういった居場所づくりをしている。</p>
会長	<p>そのメンバーが、最初につくった中・高校生委員会のメンバーで、区が動かないので自分たちが動き出した。区はそこに補助金を出して居場所をやったんですね。</p>
委員	<p>委託先としてNPO法人をつくって、NPOのリーダーたちは杉並で言う中・高校生委員のOBというか、今は大学生の方がやっているんですね。</p>
会長	<p>これはこういう話を中・高校生も入ってやっていた中で、いくらたっても行政が動かないということで、自分たちでやりたいと言ってやり出して、そこに区が補助金を出さず仕組みをつくった。補助金の受け皿は法人でないとかだめということで、彼らがNPOを立ち上げて動いたんです。</p> <p>例えば、そういうことも1つの方法ですよ。空き部屋で、今は利用がないと言っていましたが、これは広がっていくと多分出てくる。だから、なかなか難しいですよ。ここは大変です。この子たちはもう特別で、児童館リーダーから育ってきているので、そういう意味での思いがものすごく強い子たちですね。自分たちの居場所がなくて、それこそマックとサイゼリアでやっていて、いくら言っても18時以降開館してくれなくて、中・高校生委員会でもさんざん言っても変わらなくて、もう自分たちでやろうという経緯を追ったんですね。</p> <p>ニーズはそういうところに多分あると思います。杉並区も先ほど副会長がおっしゃったように、ユースと中・高校生世代が結びつくような仕組みをつくったとき、このユース世代を支える仕組みをつくっておかないと。ただ、ここを支える部局がない。それもやはり課題だと思います。中・高校生までは18歳未満ですので、児童福祉法で一応健全育成を含めて引っかかるのですが、ユース世代はどこが面倒を見るのかとなると、社会教育だとマッチングしなくなってしまうですよ。</p> <p>世田谷区も同じことが起きたんです。ですから、卒業した大学生リー</p>

	<p>ダーたちは、子ども部分の部局の対応ではなくなって、やはり教育委員会だというけれども、教育委員会は教育委員会でユースリーダーは別に育てているのでマッチングしない。だから、そこを杉並がもしやられるとなるとどう考えるかです。児童青少年課があるので、名前のとおりそこに担えばいいのか。</p>
委員	<p>区内にある幾つかの大学と図書館利用などを含めた連携の仕組みはつくっていますが、ご意見をいただいた点については検討課題かと思えます。</p>
会長	<p>大学間連携はあちこち回って、世田谷区も図書館相互利用協定があるので、区民の方はうちの大学も使えるのですが、そこに学生が結びつかないんです。</p>
委員	<p>そうですね。東日本大震災の後、区を挙げて、本当に関係機関にご協力賜ってバザーでチャリティをやって、その売り上げを義援金として被災地へ送るという取組をしました。そのときに大学生の方々なども、いろいろとご協力いただきました。</p> <p>こうした取組をうまくつなげていく仕掛けが必要だと思います。</p>
会長	<p>そういうのは必要ですよ。唯一あるのがボランティアビューローになってしまふんですよ。あそこは社協にいつてしまうので、そのマネジメントが行政としてどこまでかめるのか。</p> <p>例えば、こういう活動に大学生を入れ込むときに、ビューローを通してやるよりは、大学なんか協定を結ぶのも杉並区とのほうが多分協力しやすい。インターンシップとか今、どこの大学もいろいろやりたいというのがあると思うし、そういうときに行政は公務員インターンシップの仕組みはあるけれども、こういう活動にといったときに調整機能がない。そういうことも含めていえば、先ほどあったのですが、ハードだけではなくてソフトをマッチングさせていかないと、なかなか中・高校生の居場所は難しいですね。これを見ているとそうですね。</p> <p>武蔵野プレイスはうまくやっていますね。管理委託になると多分向こうが2交代制が何かで分けているんじゃないですか。葛西プラザは、中・高校生指導員は午後2時からとなっている。こういう工夫がどこまでできるか。児童館なんかが開館時間を延ばしたときに、児童厚生員たちの勤務時間を午後からにして、午前中は広場管理者だけを置くような形ができれば、今でもソフト面では可能になりますよね。</p>
委員	<p>そうですね。あと、先ほどの資料1のアンケートも、もう少し分析的に、しかもクロスもかけながら見ていく必要があるにしても、居場所の施設設備環境という意味でいうと、集まって談笑できるようなスペースとか、そのきっかけとなるような図書コーナーみたいなものとか、学習スペース等のニーズが伺えます。</p> <p>あと会長もおっしゃるように、金太郎飴みたいな施設ばかりではなくていいということからすれば、例えば新たな居場所をどこかにつくるとして、その周辺のスポーツ施設とか図書館機能だとか、そうした社会資源と組み合わせられる形も考えられるかと思えます。</p>
会長	<p>図書館も一般ではなくて漫画図書館とか、今の子どもたちではキャラクターものとかイラストが好きですから、例えばそういう若者向けのものとか、逆にそういう特徴も何か必要かもしれません。そういう子どもたちがそこに集まって、イラストや漫画をつくったりすれば、違う文化の発信が杉並から起きる。</p> <p>隣はジブリがありますが、杉並だってその影響を受けてそういうものが</p>

	<p>あるわけですから、どうせ置くなら一つひとつが違う形になれば、中・高校生たちのアクセシ力は我々が考えるよりも少しあると思うから、何かそんなふうになるといいと思います。</p> <p>話は尽きなくなるのですが、おおむね時間になりましたので、とりあえずこれで閉じたいと思います。この後また中・高校生から意見を伺うわけですが、よろしいですか。こういう形で1回閉じさせていただきまして、第2部の準備に入らせていただきます。</p>
子育て支援課長	<p>ありがとうございました。では、今後の予定をご説明します。</p> <p>第2部としては、一応3時半から中学生13人で、きのうの段階では男子6名、女子7名、計13名で、午後4時45分から高校生13名。こども昨日の段階ですと男子6名、女子7名の計13名にこちらに来ていただきまして、おのおの1時間程度、委員さんとの懇談ということです。</p> <p>ただ実際に、昨日の夜も児童青少年課とやりとりしましたが、ふたを開けてみるともしかしたら人数が違って来るかもしれません。おおむね13名前後で、大体男子女子半分の割合で中学生、高校生が来ます。</p> <p>会場は横に用意してございます。3時半になりましたら始めたいと思いますので、1時間ずつ程度でよろしく願います。</p> <p>その後、一応6時から再度こちらに戻っていただきまして、意見交換の内容で皆さんからご意見いただければと思います。</p>
会長	<p>それでは、一旦、懇談会は休憩とし、中学生・高校生の方々との懇談を行うこととします。</p>
中学生との懇談（15時30分～16時30分）、高校生との懇談（16時45分～17時45分）	
会長	<p>中学生、高校生の意見を伺う時間が足りない感じでしたが、これを通して皆さんのご意見をお伺いします。それぞれ意見は異なっていますが、聞いてみていかがでしたか。おもしろいと言えばおもしろかった。</p>
委員	<p>図書館というのがつながってびっくりしました。</p>
会長	<p>中・高校生のニーズにこたえる意味で、図書館が象徴的に出てきていましたが、そこになると、福祉のところではなくて、教育委員会との関連で一緒にやっていく。今、聞いているとニーズがあるというのはよくわかるし、中・高校生のための図書となると、図書館が考えられるような部分だけでなく、「漫画」や「アニメ」を含めて中・高校生型の図書館のランチが併設できるといい。ゆう杉並でさえ欲しいという意味では、かなり大きい。両方に共通しているニーズの一番大きなものはそこですかね。</p> <p>あとは自販機。ほんとに170円ですか。聞いていて、定価はないよなと思いました。それはそれで改善できるのを受けていただければいいなと。今はいろいろな自販機が出ていて、オレンジリボンなども含めて寄附型の自販機というなら、もうちょっと納得するんだらうけど、そういうのも彼らに還元できるような仕組みがあるといいですね。自販機は委託でやっているでしょう。</p>
事務局	<p>福祉団体が間に入って、その売上げが福祉団体に入る。</p>
会長	<p>そういうのは書かれていないんですか。</p>
事務局	<p>いや、書かれているはずですが。ただ、子どもたちがすぐ見てわかるようなアナウンスになっているかというところではない。</p>
会長	<p>その辺は必要ですし、やはり高いし、彼らのニーズに合っていないのは聞いていてわかるので、そこは受けとめなければいけないのかなと思いました。</p>

	あとは皆さん、お聞きになっていかがでしょうか。
委員	中学生たちは、今度新しくつくとしたら学校の近くがいいと言っていましたね。高校生は駅前に欲しい。そこは年の違いかなという気がしました。
会長	近くないと使えないというのは共通しています。杉並の子たちの話の中でも自転車での限界性はありますね。
副会長	地域の偏在ですね。片方あって、片方ない。幾つか同じような機能を持ったものが必要です。
会長	「北にない」と言われたらそう思いましたね。
委員	改めて中学生と高校生の利用者の意見を聞くと、今までも言われていたことですが、区長部局と教育委員会で仕事の役割分担は必要ですが、ただ事業にはもっとお互いに連携を強化していかないといけないなとつくづく思いました。 中学生から高校生、高校生から大学生になっていく。今までは児童館にいるスタッフが寄り添ったり、信頼できる間柄であった。もちろん、これからもスタッフとの信頼関係は必要ですが、違う面で必要なのは、人生の先輩という、つながりとしての人間関係を、こういう居場所を通じてどのように具体化できるか、発展できるのかということもさらに真剣に考えていかなければいけないという印象を強く持ちました。
会長	最後のところで言うと、あれだけ頑張っている子たちが大学生になったら離れざるを得なくなって、区としては人材を逃がしていますね。ただ、あの子たちを受けとめる部署がない。社会教育に渡っちゃうと、そこでは連続していかないの、ユースのところを大学生になったらどうしようかと彼女たちもかわり方で悩んでいましたが、あの子たちはいいリーダーになれると思うんです。
委員	人生の身近な先輩としての相談者という役割が期待されます。
会長	活動してきていますから、なれますね。ただ、このままいっちゃうと、彼女らや彼らはかかわれない。その意味では、人材を逃がしているようでもったいないです。どういう大学に進むかによっても違いますが、区内の子が行く大学はほとんど関東近辺ですし、関東近辺の大学は8～9割は関東の学生を抱えています。うちみたいなところでもそうです。そういう意味では、あの子たちを逃がさない方法を考えていく。すごく優秀な子たちが集まってきています。「ゆう杉並」の運営その他に関して、真剣に向き合っている子たちが、大学生になったらその力を発揮する場がない。 さっき隣の区の話をしていましたが、彼らは自分達でNPOをつくって結集すると残るんですが、杉並でいうとそのところがないので、あの子たちのあれだけの思いが空回りして行って終わりになってしまう。その受け皿というのが新しい課題で、きょう突きつけられたかなと思います。 確かに中・高校生の居場所なんだけど、その後の居場所も含めての連続性は、部長がおっしゃったように考えていくと、上の世代の受け皿が行政にないので、今後ぜひ杉並区は考えてもらいたいし、大学生は「高校生以上、大人未満」ですから、どこかでそれをつないでいかないと、区に振り向いてくれなくなっちゃうんじゃないですかね。もったいないなと思います。 あれだけ「ゆう杉並」に結集して、あれだけの子たちが集まって真剣に考えていろいろなことをやっている。ユースプロジェクトもそうですが、きょうはそれを本当に感じました。ですから、居場所を育てるためには、

	<p>上の世代が育ってくれないと、下の居場所も育っていかない。ユースプロジェクトの人たちがそうですね。いいアドバイスが受けられなくなったとき、「団塊」がポンと出ちゃったら今ピンチだと言っていました。ああいうふうになると下手すると消えてしまいます。あれを育てていくのも大事なところになると思います。あんなに細っていると思わなくてびっくりしました。</p>
児童青少年課長	<p>ちょうど終わった後、この場で話せなかったことの話を少し聞いていましたが、早速、合同企画の会議が始まりました。両方でコラボしようというのと、地域中・高校生委員会から、参加予定だったんですが、来られなかった子もいます。そこにも声をかけて、何をやっていこうかという話し合いがちょうど始まりました。今日は時間がないから次にということになりそうです。</p> <p>今回子どもたち自身が自覚して、これから先はどうしようかと。自分たちが卒業した後のことも考えようというのをその場で話し合いを始めてきていたので、少しいい動きが出るのかなと。今は話を聞いているだけでしたが、そんなところも出てきたと思いました。</p>
会長	<p>それを受けて課長あたりが年度末近くでシンポジウムを打って、区民の皆さんへの彼らの意見の発信の場をつくってあげるといいですね。シンポジウムってお金がかからないですから予算がなくてもできる。彼らにするとそこができないところですが、行政側は設備をお持ちになっていますので、区民の人たちに声を聞いてもらう。</p> <p>杉並区はNPOとかいっぱいあるので、動員力はお持ちになっていますね。そこで声を出させてあげて、それにこたえる行政があれば、彼らとのレスポンスが強くなるので、もっと頑張るのではないのでしょうか。それはできそうな気がしますね。</p>
児童青少年課長	<p>前からあることは知りながら余り接点は持ってこなかったのも、お互いのグループがお互いに興味を持ったというのは、いいきっかけになったように思います。</p>
会長	<p>それを支える仕組みをつくってあげればいいんですよ。毎年1回それがあれば、彼らはそこに向かって連携していくという目標ができます。中・高校生たちは代がわりが激しい。だから、その仕組みをつくってあげないと消えてしまう。</p> <p>今年の子たちはこういう機会があったので、たまたまつなぎがあってやろうと思うんですが、2年たったらあの子たちはいなくなってしまう。そこで、仕組みをつくっておくと、代々引き継がれていきます。仕組みがないと、来年はこういう企画がないですから、次の子たちにすれば、あの子たち、何やっているのよとなる。そこをどうやってつくってあげるのか。それは大人側がサポートするべきだと思います。</p> <p>テーマが「居場所」とか「中・高校生の何とか」というのを毎年発信して、区長にも聞いてもらえればもっといいと思いますが、それは区民でいいと思います。区民に聞いてもらって文章にまとめて、毎回、宣言の形で残っていけばいい。それは皆さんのためにもなる。当事者の意見を聞くということを杉並はやっていますよ、というのはすごく強いメッセージになるし、若者たちに対してのメッセージにもなります。彼らはそこに向かって頑張ろうとするので、それが杉並区の子たちの連携や広がりになるし、杉並に対しての思いが強くなると思います。</p> <p>そういう意味でのサポートを今後していただけると、きょう芽生えたものが育つような気がします。すごく熱心で、皆さん、残って質問していたし、</p>

	<p>最後まで先生のほうにもずっと質問されていて、自分たちの思いをどうやって区に届けるのかという課題について話されていたので、「ここに来てもらったから、こうしたよ」というのを出してあげれば、彼らはここに来た意味をもっと強く感じる。そういうふうな仕組みをつくるのがすごく大事だと思います。</p> <p>これに書いたらなくなっちゃいますが、制度として区が残してくれれば、ここに彼らが来て発信したという意味は残ります。そんなことをぜひやっていただきたい。専門委員会がそこをさらに引き上げてくれればもっといいと思います。代表委員の人たちも、発言するためにもう一回自分のところに戻って意見を集めるという格好で、また専門委員会は専門委員会で始まると思いますし、そんな場があるといいと、いま思いました。</p>
委員	<p>実際にゆう杉並を卒業して大学生になったとか、中・高校生運営委員会をやって卒業していく大学生との関係で、何か良い先例はありますか。</p>
児童青少年課長	<p>ユースプロジェクトに関してはサポーターという形で参加している大学生は何人かいます。大学での予定もどんどん入ってきますので、スケジュールが合わない場合もありますが、ユースプロジェクトの会議があったときに、時間が空いている大学生は数人、一緒に参加してくれて、過去の事例をサジェスションしてくれたりしています。</p> <p>運営委員会に関しては、卒業というのがすごく強い感じになっていて、たまに来てはくれますが、それは運営委員会の場に来るわけではなく、ゆう杉並に来て、今、どういうことをやっているのかというのを職員と意見交換するのが中心です。運営委員会でこんなことをやっているよという話を、職員を経由して意見交換しているという程度で、直接的なサポートは余り入っていないのが実情です。</p>
会長	<p>ユースプロジェクトとゆう杉並とあわせて、杉並ユースミーティングのような組織をつくってあげて、大学生と中・高校生の代表の子たちが討議できる場をつくってあげれば、大学生たちがそこに参加しやすくなりますね。</p> <p>変な話ですけども、ゆう杉並のOB組織がひょっとしたらできるかもしれないですね。ユースプロジェクトのほうもそういうのができればいい。ただ、大学生なんて（中・高校生より）もっとドライですから、つくっても出番がないとね。そんなことができるといいといいですよ。</p>
児童青少年課長	<p>運営側に回るといふアイデアについて、実際にやれる方向は模索しているところですよ。</p>
会長	<p>ユースサポーターの形にして相談をやるとかは。大学生は、バイト形式にすればびたっとはまってくるのではないかと。</p>
児童青少年課長	<p>スケジュールの調整をうまく差配していく仕組みづくりが必要になってくるので、そのあたりもよくよく議論しないとと思います。</p> <p>アルバイトとしては来てくれています。夏休みのアルバイト、それから、ちょうど今は、子ども国内交流がありますので、交流事業で参加してくれている大学生もいます。</p>
会長	<p>そこを組織化すればユースサポーターになるのではないですか。</p>
児童青少年課長	<p>今は窓口を担当ごとに分けてきてしまっているもので、うまくまとめていくことが必要と考えています。資源はいっぱい持っているけど、それをうまく使ってこられていなかったかと思っています。</p>
会長	<p>そこはうまくまとめていただいて。</p> <p>いろいろ意見は出ましたが、ほかに何かご意見はありませんか。</p>

副会長	<p>先ほど残っていた彼なんかは、自分たちの声をまた聞いてほしいということと、今回来ているのはゆう杉を使っている子どもたちの声しか出ていないので、それ以外の子どもたちの声も吸い上げたいということも言っていました。部活をやっている子は使っていないということもありましたので、圧倒的多数はそっちのほうが中・高校生は多いわけで、その声をどう反映して居場所を考えていくか。</p> <p>それからこのアンケートで気になるのは、女子高生の居場所がカラオケボックスとかになっていて、中学生から「女子ルームを」という声がありましたね。今うちの娘は高校2年生ですが、塾に行ってそのまま11とか11時半までいて帰ってくる。その塾の学習室に男子学生がわっと入ってくると臭いと言っていましたから、もしかしたら女子高生たちが集まる女子高生のルームがあるといい。</p> <p>そんなことで、今までゆう杉を使っていない女子高生たちにもそういった居場所があるよというのが、全部ではなくても、幾つかのところで検討されるといい。今は電車も女性専用車両がありますね。そういうような場所も検討されると、今まで外に向いていたものがそこに集まってしゃべるとい場にもなるかなという気がしました。</p>
会長	<p>今日はアンケートを裏づける話が出てきましたね。公園でポツンと一人とか、ああいうのを今の子どもたちは求めている。一人になりたい。ゆう杉並でも静かな部屋が欲しい。そこに応えていないし、その場がないんですね。男の子まで新宿をぶらぶらしているというのはびっくりしちゃいましたけど、行き場がないんでしょうね。</p> <p>男の子は男の子で、彼も言っていましたけど、女の子を入れたら失敗したと。あの年ごろは異性に対するの興味があるので、一緒に回りたいと思うけれども、実際は違うんですね。女の子は女の子の世界、男の子は男の子の世界があるというのを、きょう聞いていてわかった。マスコミが騒いでいるのとは全然違うニーズというのがあるんですね。そこをどう受けとめるか。</p> <p>全部が同じようにならなくていいけど、女の子のメンタルを含めての問題と、男の子のメンタルの部分ではアプローチが違うので結構難しいですね。</p> <p>今日聞いていて思うのは、少しサポートする仕組みをつけていかないと、マイノリティの子たちは来ていないけど、話を聞いていたら結構危なっかしい子も何人かいるので、そういう子たちの居場所として、ああいう場所がないと難しいとは思いますがね。そのときに、メンタル面で理解しているサポーターたちがそこにいるといい。そういうところに寄ってきますから、そういう仕組みもサポートする側は必要ですね。</p> <p>集まっている子も、本当に前向きな子もいますが、中にはあそこが救いになっている子たちも何人かいるような感じでした。どうしてもこういときはマイノリティのところの声が出てこないですが、そこから少し見えてくるので、その子のサポートの仕組みを考えないといけない。</p> <p>図書館さんにも協力いただいているのは、中・高校生たちが一人になっていられる場所の大切さですね。それを見守る人がそこにはないと、ただ部屋さえあればいいということにはならないので、そういう仕組みをつくっていくのが居場所の中の1つの要素として必要なのかなと聞いていて感じました。</p> <p>皆さんも感じられたと思いますが、全部が全部、「元気いっぱい、前向き」という子どもたちではなくて、それぞれの課題を抱えているのかなという人もいましたので、そういう意味では、居場所の難しさがあります。セーフティネットとしての居場所は子どもにも必要ですし、広場事業がそういう要素</p>

	<p>を持ち出しましたね。子どもたちの居場所の中にもそういう要素を入れてい かないと、健全育成だけでは余り意味を持たないのかなと思います。</p>
委員	<p>この懇談会では主として健全育成を主眼に考えることとしていますが、 今、会長からお話があったような視点から、つなぎの仕組みをどう考え ていくか。完全に分けて考えればいいという話ではないということだと思 います。双方の意見だと思いますので、その辺をどう具体化していくのか は、引き続き多面的に検討していかなければいけないテーマと受け止めて います。</p>
会長	<p>ネットワークの発想がないと難しい。先ほど図書館の話とか、我々以上 に彼らは横断的に動いていますから、学校の情報と居場所の情報、図書館 のような社会教育の情報というさまざまなところに、ばらばらにそれぞれ の情報が上がっているのをある程度受けとめる仕組みとして、ネットワ ークの発想の中で居場所を考える。</p> <p>図書館を入れたのはいいけれども、図書館運営は教育委員会がやるから となっていくと、今、部長がおっしゃったところでのセーフティネットに ならない。そういうソフト面。副会長さんがずっとおっしゃっているよう に、ソフトのありようをどう整えていくかは結構難しい課題だと思います。 ゆう杉というのは、そういう意味では社会教育でもあり、福祉的な要素も あり、そこにうまく情報を共有する機関が絡んでいけばいいのですが、な かなかそこまで行き切れていないことから言うと、あそこでいろいろな課 題を持った子たちの発見につながらなければなかなか難しいのかなと。</p> <p>あの子たちが、来なくて問題を持っている子がいるというのをきょうも 言っていましたので、それを引っ張り出すために、何かソフト面のサポー トが今回必要だと思いますね。</p> <p>確かに武蔵野のあそこもいいんですけれども、指定管理でああいうふう に突っ込んだときに、運営はいいんですが、ソフト面でのサポートのとき にどうなのかなという課題を抱えるのではないのでしょうか。</p> <p>融通性はきくと思いますね。きょうの要望でも、両方から出ていました が、時間は遅くまでやってほしい。それを外部委託でぼんといけちゃうの かといったときに、もう一個の面の連携というところでは課題を抱えます から、そこをどう考えるかですね。</p> <p>あ話を聞いていると、勤務時間を工夫すればいいそうですけどね。休 み中は別にしても、どこもそうですが、午前中は閑古鳥が鳴いているなら 人が要らないんじゃないかと単純に思いますね。子どもたちの要求を聞い ていると、中学生だと7時ぐらい、高校生は9時にやりたいというなら、 ずらしてしまえばやれないことはない。理由が、隣近所にうるさいという けど、彼らに問題解決してもらえばいいわけだから、今の仕組みでもでき ることはあるのではないかと感じました。</p>
委員	<p>児童青少年課中・高校生担当者の意見集約という資料をもらいました。そ れと今日のアンケートや生の声を聞いても、求められている機能は、カフェ があって、より一人になれる空間があって、逆にグループでも活動できると ころがあり、ラーメンでも食べられる談話コーナーがあり、相談相手がいて、 相談相手はできれば中・高校生委員会のOBさんたちがいればいいかもしれ ません。あとパソコンとコピー機が使える。そんなイメージができ上がって きました。</p> <p>そういう機能があって僕が知っているのは、去年にできたばかりの区内に ある明治大学和泉校舎の図書館です。今言った機能は全部備えていて、区民</p>

	<p>も利用できます。今の図書館は、調べ物を終わたらすぐ帰るのではなく、一日いてもいいという滞在型ですし、お金もかかりません。</p> <p>また、調べていたら最近は「勉強カフェ」というのがあって、これも今言った機能が全部そろっています。ここはスポーツジムみたいに入会金が1万円、月々7,000~8,000円でという有料制です。これを使っているのは圧倒的に20~30代の会社員だそうです。</p> <p>大学図書館にしる、有料カフェにしる、今そういう機能が必要とされているんだという意味で似通っている。ゆう杉並をプラスアルファしようといった場合にも、そういう機能の要望が挙がってきているということは、それが現代の若者に求められていることだと思いますので、そういうところを工夫しながらやっていければと思います。</p> <p>ゆう杉2号店、3号店というような新たな中・高校生の居場所は、なるべく駅前で、かつ図書館機能をプラスさせるという方向性が自分としてはまともってきた気がします。</p>
委員	<p>今日、子どもたちの話を聞いていて、途中、何の話をしていたのかわからなくなるぐらい、皆さんが意見を出してくれたなと思いました。あそこに来た子たちは、お家できちんと生活ができている子たちなんだろうなと思いつつ、中学生も高校生もちゃんとした子が来ているんだなと感じました。なので、そうでない、家に一人であることを望んでいないのに、一人でいる子たちが行ける場所をつくる方向も考えたいと思いました。</p> <p>あと、青少年の協議会でこの会議のことをご紹介したときに、「新しいゆう杉並をつくるというのではなくて、ほかに何かいい方法がないですか」とお話ししたら、地域区民センターに中・高校生がいる場所をつくれたらいいんじゃないのという話が出ました。</p> <p>その中で、セッション杉並（高円寺地域区民センター）がありますが、前は中・高校生がいられる場所をつくっていたんだけど、今は廃止されたんだよと聞きまして、恐らく騒いだか何かしてその場所がなくなったと思うんです。ちゃんとした情報はわからないのですが、前はそういうことをやっていたと聞き、そういう場所をつくってもだめになることがあるので、やり方次第でできるんだろうなと思いました。</p>
会長	セッションというのは社会教育センターですか。
委員	地域区民センターも入っています。全体を通称「セッション杉並」といいます。
会長	複合施設ですか。
委員	そうです。
生涯学習推進課長	社会教育事業は、団体交流室みたいなところがあって、登録団体が使えるような部屋はあります。昔のことはわからないのですが、確かに中・高校生が使うスペースは、今はないですし、中・高校生が集まってきているというよりも、ほかの地域区民センターと同じように、年齢の高い方が将棋や囲碁を差すような施設になっています。
会長	社会教育関係の施設は、杉並区はかなりお持ちですか。
委員	数的に一番多いのは図書館で、あとは科学館や郷土博物館、社会教育センターですね。
会長	社会教育センターは幾つありますか。
委員	そこだけです。
生涯学習推進課長	社会教育センターは1カ所で、今お話のあった高円寺の地域区民センター

	と社会教育センターが複合の施設になっている。ほかの6地域はそれぞれの地域に地域区民センターが地域課の所轄として施設があります。さっきお話がありましたが、そこに体育館も併設されているのですが、予約しないと使えないので、大人の方の利用がほとんどになっております。
会長	その話題が出たのは中学生でしたか。公民館機能を持っている場所はそのくらいのブロックでありますか。
生涯学習推進課長	区内の7つの地域に分けておりまして、7つの地域全部にあります。先ほどゆう杉について中央線を越して来ないというお話がありましたが、西武線側にも2つありますし、地域の北にもあり、南側にもあり、真ん中にもあります。
委員	だから地域児童館も7つの地域にある。その7つとは違いますか。
児童青少年課長	ブロックは7つに分けてあります。
委員	公民館機能という話でいえば、かつては社会教育センターのほかに社会教育会館も幾つかあったんですが、それが時代の流れの中で廃止して、ほかのものに転用してきたという経緯があります。 旧来でいう公民館機能は、地域区民センターとはちょっと違う面があります。
会長	単独型というのは難しい時代になってきていますからね。特に杉並区の場合は、それこそ彼も言っていたけど、土地の問題と、そう簡単にどこか明け渡せというわけにもいかない中では、縦割りを超えて工夫しないと難しいかもしれませんね。 あとは何かご意見はございますか。ほぼ出尽くしたということでよろしいでしょうか。長時間でしたのでへとへとになってきていますが。事務局、早いです、これで1回閉じてよろしいですか。あとは事務連絡を含めて事務局からお願いします。
子育て支援課長	ありがとうございました。次回は9月5日、午後6時半から第4会議室を押さえておりますので、あらかじめ今日の会議録等を含めて資料はお渡ししたいと思います。よろしくお願いいたします。
会長	委員会は以上で終了いたします。ありがとうございました。